

2016年12月18日(日)朝10:10～

待降節第4、自由交歓会等

12月第3待降節第4共同主日礼拝式説教 日本アライアンス庄原基督教会

説教題：**イエス・キリストの誕生**

聖書：マタイ 1章18～23節

＜口語訳＞

新約聖書1～2頁

マタイ 1章18～23節

＜新共同訳＞

新約聖書1～2頁

マタイ 1章18～23節

＜新改訳第3版＞

新約聖書1～2頁

マタイ 1章18～23節＜塚本訳＞

新約聖書67～68頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

◇**マタイ書**は、使徒**マタイ**が、ユダヤ人の立場で**王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。

◇**マタイ24章**から**主イエス様**は、ご自身を**人の子**と呼んで、**人の子の来臨・再臨**について語り、**25章**では、**10人の乙女の譬(1～13節)**、**タラントの譬(14～30節)**、そして、**人の子の裁き・裁きの裁定基準**を提示しておられます。

⇒先週は、**マタイ13:53～58**から「**郷里では受け入れられなかった神の御子イエス**」を見、**マタイ11:7～19**からは、「**キリストの先駆者、ヨハネ働き**」に注目、**神の御子イエス様**との関わりを知りたいと願いました。

⇒本日は、**マタイ1:18～23**から「**神の御子イエス・キリスト様の誕生**」の出来事を見ます。

⇒多くの日本基督教団の教会では、本日が、クリスマス礼拝のようですが、庄原教会では、次週の25日にクリスマス礼拝を守ります。

⇒本日は、「**インマヌエル**」について、次週は、「**みことばの受肉**」を扱います。

本論；

◇本日、**マタイ書1章18～23節**から主の**使信**に**思い・心**をとめます。

◆**マタイ1章18節**；使徒マタイは、**神の御子イエス・キリスト様の系図**を**ヨセフ**が担ったことを語っています。

◇**17～25節**；塚本訳◆**誕生**

「**18** さて**イエス・キリストの誕生**はこのようであった。——**イエスの母マリヤがヨセフと婚約の間柄で、まだいっしょにならないうちに、聖霊によって身重となっていることが知れた。**」と、使徒マタイは語っています。

◇**10～14節**；「さて**イエス・キリストの誕生**はこのようであった」、「**イエスの母マリヤがヨセフと婚約の間柄で、まだいっしょにならないうちに**」、「**聖霊によって身重となっていることが知れた**」と、マタイは、記録しています。

⇒**マタイ1:1～17**で、**イエス・キリスト様の系図**が記録され、「**ヨセフ**」は、その系図に**イエス様**を繰り入れる役目を担ったのです。

⇒**神の御子イエス様の誕生**は、**聖霊による**のですが、人としては、**ヨセフの子**とられました。

- ⇒しかも、それはヨセフの発意ではなく、**神の発意**でした。
- ⇒**18節**の最後の箇所を直訳すると、「**聖霊によって胎内の中に持つこととなったことを見つけた**」で、「**神の聖霊**」のおざをマリヤとヨセフは、見せられたのです。
- ⇒**KT師**は、**神の御子イエス様**が、人間としては、ヨセフの子とされて、**マタイ1:1～ 17にある系図**に入れられたことが大事なことであると語っておられます。
- ⇒**KT師**は、その系図の中のダビデに言及し、部下ウリヤを死に追いやり、その妻、バテシェバを奪った者の系図、罪によって汚された系図の中に、**神の御子イエス様**は、入って下さったのです。
- ⇒**マタイ**は記録していませんが、ヨセフは、**神の御子イエス様**を迫害したり、殺害しようとする人々から守り抜く父親とされたのです。
- ⇒今日は、もっと大きな**神の恵みの中**におかれています。
- ⇒ヨセフにおいては、ヨセフの子として生きて下さいましたが、今は、**内住の主**です。

◆ マタイ1章19～21節 ; 使徒マタイは、神の天の使いが夢の中に現れ、その子をイエスと名つけるようにヨセフに命じたと語っています。

◇ 17～25節 ; 塚本訳 ◆ 誕生

「19 夫ヨセフはあわれみぶかい人であったので、(これを公沙汰にして)女を晒し者にするのを好まず、内緒で離縁しようと決心した。

20 しかし(なおも)そのことを思案していると、主の使いが夢でヨセフに現われて言った、「ダビデの末なるヨセフよ、心配せずにあなたの妻マリヤを(家に)迎えよ。胎内にやどっている者は、聖霊によるのである。

21 男の子が生まれるから、その名をイエス(訳すると、神はお救いになる)とつけよ。この方がその民を罪からお救いになるのだから。」と、使徒マタイは語っています。

◇ 19～21節 ; 「夫ヨセフはあわれみぶかい人であったので、(これを公沙汰にして)女を晒し者にするのを好まず、内緒で離縁しようと決心した」、「主の使いが夢でヨセフに現われて言った、「ダビデの末なるヨセフよ、心配せずにあなたの妻マリヤを(家に)迎えよ。

胎内にやどっている者は、聖霊によるのである、その名をイエス(訳すると、神はお救いになる)とつけよ。この方がその民を罪からお救いになる」のだからと、マタイは、ヨセフの思いを神が理解し、神の天の御使いによって、マリヤの胎内の子に「イエス」と、名つけるようにお命じになったのです。

⇒「イエス」とは、「ヨシュア יֵשׁוּעַ」のギリシヤ語名で、「神は救い」の意味がある名前です。

⇒「神が罪から救い出して下さる」との神の使信が告げられていると、多くの解説者は理解しています。

⇒OA師は、「聖霊による」を「聖霊に覆われる」と理解し、創世記1:1~2のくらやみを「聖霊が覆い」、光のもとでの神の創造が始まったことと結びつけておられます。

⇒「聖霊の覆いにより」、処女マリヤの胎内に「神の御子イエス様」が宿る神の創造のわざを神はなされたのです。

⇒「処女による神の御子イエス様の降誕」こそ、神のわざで、科学的検証で証明すべきものではないのです。人間のわざではない。

◆ マタイ1章22～23節 ; 使徒マタイは、神の御子の誕生により、インマヌエル預言が成就したことを告げています。

◇ 17～25節 ; 塚本訳 ◆ 誕生

「22 これはみな、主が預言者(イザヤ)をもって言われた言葉が成就するためにおこったのである。――

23 『見よ、乙女が身重になって男の子を産み、人はその(子の)名をインマヌエルと呼ぶであろう。』インマヌエルを訳すると『神はわれらと共に』である。」と、使徒マタイは語っています

◇ 22～23節 ; 「これはみな」、「主が預言者(イザヤ)をもって言われた言葉が成就するためにおこった」、「見よ、乙女が身重になって男の子を産み、人はその(子の)名をインマヌエルと呼ぶ」、「インマヌエルを訳すると」、「神はわれらと共に」であると、マタイは告げます。

⇒ イザヤ書7章14節で、「主が預言者(イザヤ)をもって言われた言葉」で、その預言が成就するために、「乙女が身重になって男の子を

産む神のわざ」が、「おこった」のです。

- ⇒イザヤ書7章14節を見ますと、南ユダ王アハズとその民が、北イスラエル・エフライムとスリヤ(アラム)が同盟を結び、南ユダ王国を攻めて来るといので、その心が動揺します。
- ⇒その時、預言者イザヤが、神にしるし(神のわざ)を求めるよう、南ユダ王アハズに命じますが、南ユダ王アハズは聴き従いません。
- ⇒それで、「それゆえ、主みずから、あなたがたに一つのしるしを与えられる。見よ。処女 **הַמְּלֵצָה** がみごもっている。そして男の子を産み、その名を『インマヌエル **אֱמָנּוּעַל**』と名づける。」(新改訳 第3版)と、預言者イザヤが預言、その男の子がまだ幼い時、神が選んだアッシリヤ王が、シリヤとエフライムの同盟軍を滅ぼすと告げるのです。
- ⇒「『インマヌエル **אֱמָנּוּעַל**』預言」は、基本的に神不信への宣言なのです。
- ⇒併し、マタイ1:18~23においては、神の御子イエス様が、神不信の家系に入り、そのすべての罪を担う『インマヌエル **אֱמָנּוּעַל**』となって下さるのです。

結論；

◇**神**は、変わらない愛と思いやりの神です。

◇**マタイ書**は、使徒**マタイ**が、ユダヤ人の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。

◇**マタイ24章**から**主イエス様**は、ご自身を**人の子**と呼んで、**人の子の来臨・再臨**について語り、**25章**では、**10人の乙女の譬(1～13節)**、**タラントの譬(14～30節)**、そして、**本日の人の子の裁き・裁きの裁定基準**を提示しておられます。

⇒先週は、**マタイ13:53～58**から「**郷里では受け入れられなかった神の御子イエス**」を見、**マタイ11:7～19**からは、「**キリストの先駆者、ヨハネ働き**」に注目、**神の御子イエス様**との関わりを知りたいと願いました。

⇒本日は、**マタイ1:18～23**から「**神の御子イエス・キリスト様の誕生**」の出来事を見ます。

⇒①**神**が**ヨセフ**を**ヨセフの子**として守り、②**神**が**ヨセフ**に『**処女 עֲלְמָה**』**マリヤの胎の子**に**イエス**と名づけさせ、③**神不信のすべての人々**を**罪から救う**『**インマヌエル עִמָּנוּ אֱלֹהֵינוּ**』となる。

⇒イザヤ8:8;「ユダに流れ込み、押し流して進み、首にまで達する。インマヌエル。その広げた翼はあなたの国の幅いっぱいになる。」と、神不信の民を神不信の王国アッシリヤが裁くというアイロニー(皮肉)の神のわざがなされましたが、神の『インマヌエル **אֱמָנּוּ**』なる神の御子イエス様は、神不信の家系に入り、神不信の家系を担い、十字架の死さえも引き受け、民の救いをなす「**神の救いイエス**」となって下さいました。

⇒マタイは非常に地味な表現を用いつつも、「**心の深み**」で罪汚れを抱く私たちを解放するため、今は、「**神の聖霊による内住の主**」として、**神信仰に生きる恵み**を与えつづけて下さるのです。

⇒『**処女 **עַלְמָא****』による『**インマヌエル **אֱמָנּוּ****』なる神の御子イエス様の誕生を**神不信の罪**を告白した心で、喜び、讚美させていただきます。